

令和6年度 飯塚市総合戦略推進会議 質問・意見及び回答

第3次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について

●事前質問及び回答

1. 【資料4】P.1～P.25 人口ビジョン編について

【意見】

①20歳前の若者が大学進学等で転入する数が増加しているのは良い傾向と思う。ただ、卒業後に転出する数が多いのに懸念が残る。住みやすいまち・住みたいまちを掲げる本市にとって何を最優先に取組目標とするのか。

若者や中高年・高齢者が本市で生活していくうえで共通する事柄を見出して取り組むことも質問したい。

②本市が行った年齢別・各企業等のアンケートに基づいた問題点を担当課とともに共通・共有する課題点を見つけ出し足並みを揃えた対応が出来るのか。

③本市で生活を行ううえで必要な雇用の場所・住宅・結婚・出産育児等、また、高齢者が安心して安全で生活できるような場所など様々なことが考えられる為、市職員や地域の各種団体や住民と協議を行い一人の人が百人を、百人が一人の人を繋げるような対策をお願いしたい。

④人口の自然減数は緩やかに、社会増減数は速やかにをお願いし質問としたい。

【回答】

①本戦略は、人口減少の克服のため、移住定住の推進に特化した施策を戦略的に取り組み、各目標を実現することで、都市目標像「人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住み続けたいまち」の実現に寄与するものです。各基本目標は密接に関連していることから、全ての目標を重点的に取り組み、若者だけでなく全ての市民にとって住みたいまち・住み続けたいまちとなるよう各施策を推進していきます。

②アンケートでの調査内容の分析結果から課題を整理し、本市の目指すべき将来の方向を示したうえで、各担当課の意見も反映し、本戦略を策定していることから、各担当課とは課題に対し足並みを揃えた対応を行っています。

③市が進める様々な施策については、市民の方々から意見を伺い、協議を行いながら進めてまいります。

④本戦略の基本目標を達成できるように取り組むことが、緩やかな自然減と速やかな社会増の実現に寄与できるものと考えております。

2. 【資料5】 P.1～P.9 総合戦略編について

【意見】

若者や中高年者にとって安全で安心した生活を行う上で雇用の場所は重要。

そして働くことによりゆとりができ、若い世代には出産育児などに希望がもてるのではと思う。これからの日本を支える子どもたちが一人でも多く増えることを望む。

個人情報との規制もあるが地域で子育てを支援できる多様性も構築しなければならない。アナログからデジタルにそしてAIと時代は変化するが、人間は情がある限り時代が変化しても基本的には変わらないと思う。道徳観や思いやる心が無い社会において先を見据えた取組が大事と考えている。

①基本目標Ⅰ・基本目標Ⅱに掲げた主な取組で、妊娠・出産・子育てや学校教育・学力向上において最優先目標とは何か。

②ここ近年災害等が多く発生している。それも予測を超える災害である。地域の住民が災害に備える対策、自分が出来る対策、地域との連携を構築して自分の命や人の命を救いだせる地域の絆が必要と思うがいかがか。

【回答】

①妊娠・出産・子育てについては、少子高齢化が進み、地域の活力維持のためにも、一定数の人口を維持しなければならないと考えており、出生者数の減少に歯止めをかける必要があると認識しております。

本市においては、有配偶出生率が高い傾向にありますので、結婚から出産へのハードルは低いものと考えられます。

そのような現状を踏まえますと、出生者数の減少に歯止めをかけるために最も効果があると見込まれる要素は、基本目標Ⅱ「未来を創るひとづくり」の、「1 未来を担う子どもを育むための子育て支援の充実」の中に記載しておりますとおり、「第2子以降の出生率の向上」であり、最優先目標であると考えます。

学校教育では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を最優先と考えています。そのために、主な取組について優先順位はなく、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることを最優先目標としております。

②公助だけでは限界があり、災害発生時の早急な対応として、自助・共助が必要になるということは様々な研修や防災教育の場面で伝えていきます。

また、防災イベント・啓発の開催だけでは、周知が難しいという意見もあるため、地域のイベントや集まりに出向き、防災関連の催しを行うことで、防災について家族や地域の方と話し合う機会を作る支援を行っています。

3. 【資料 5】 P. 8 総合戦略編について

【意見】

基本目標Ⅱ-「1 未来を担う子どもを育むための子育て支援の充実」

こども家庭庁が 2023 年 4 月に発足。発足から「子ども」は「こども」に国は表記を変えている。飯塚市の組織も「こども未来部」「こども政策課」「こども家庭課」となっている。

例えばこのページの「1 未来を担う子どもを育むための子育て支援の充実」は、「1 未来を担うこどもを育むための子育て支援の充実」となる。この部分だけではなく、「子ども」は「こども」へ表記を変更した方がよいと思う。

【回答】

ご指摘のとおり、令和 4 年 9 月 15 日付でこども家庭庁(当時は設立準備室)より「こども」表記の判断基準が発出されており、「特別な場合を除き平仮名表記の「こども」を用いること」とされております。

次期総合戦略についても、この判断基準に則って修正いたします。

4. 【資料 5】 P. 8 総合戦略編 基本目標Ⅱ-1 について

【意見】

5 行目から 8 行目「また、保護者が安心して子どもを預けることができるように、保育所・認定こども園など子育て支援施設の整備や街なか子育てひろばなどの利活用を促進し、保育士の人材確保のための支援事業や休日等の預かり、病児保育事業など、子育て環境の整備に努めます。」において、「街なか子育てひろば」が出てくるのは違和感がある。街なか子育てひろば(子育て支援センター)には、こどもを預かるような事業がないため。

単なる削除ではなく、ここで子育て支援センターを出して欲しい。例えば、「保護者が安心して子育てができるように、市内の子育て支援センターなどの利活用を促進します。」などと表記し、主な取組「③子育てしやすい環境の整備」のところで上記同様の表記をして欲しい。今のままでは、在宅育児期間中の方の子育てしやすい環境の整備について触れられていない。

【回答】

ご指摘の箇所を以下のように対応いたします。

・基本目標Ⅱ-「1 未来を担う子どもを育むための子育て支援の充実」について
「また、保護者が安心して子育てできるように、子育て支援施設の整備や子育て支援センターなどの利活用を促進し、(以降、修正なし)」に修正いたします。

・主な取組③への追記について

この項目については、幼稚園などの施設自体の整備費への支援金や、そこで働く保育士を確保するための補助金などを実施することで、子育て環境の充実を図るというものですので、直接、保護者の方と接していただいている子育て支援センターについては本項目への追記は行いません。

5. 【資料 5】 P. 10～P. 12 総合戦略編 基本目標Ⅲについて

【意見】

本市で生活をされている方々への健幸づくりや魅力あるまちづくりの推進・ワークライフバランスの推進は大切なことであると考え賛同している。

①今や本市だけでなく日本全国自治会加入率が低下している状況。なぜ自治会加入率が低下しているのか、個々人の考え方で強制ではなく任意のために加入しないことや煩わしい、めんどくさいなどと言われるが、要望等は未加入者の方が多い状況。お互いがお互いを助け合う心を養い育てることが必要と考えている。

②大きな商業施設などが出来たことで、ある年代層にとっては良い傾向だと思うが、地域の高齢者にとって買い物が困難な状況。買物難民を救済する手立てなどの対策を要望したい。

③これから認知症者が増加する予測も立てられている。認知症の高齢者を抑えるためには、自分で出来ることは自分で出来る環境を整備することが大切と思われるがその対策は。

また、本人や家族が最終的には判断することだが、状況的によっては社協や包括支援・行政が説明等を行い、その方や家族にとって最良の支援に繋げるような援助をお願いしたい。

【回答】

①自治会加入者の減少については、全国的な課題となっております。市と自治会連合会を始めとした地域活動団体と協力し、自治会加入者の増に今後も努めていきたいと考えています。

②本市におきましては、高齢者等の日常的な買い物や通院への移動支援のために、民間路線バス等の交通機関が充足している中心市街地地域等以外の地域において、従前からの9地区での「予約乗合タクシー」の運行に加え、令和4年度より「エリアワゴン」の運行を10地区で行っています。

ドアツードアで利用できるデマンド型の「予約乗合タクシー」と、路線バスのような定期路線型の「エリアワゴン」の異なる運行方式の交通機関を併用することにより、多様なニーズへの対応に取り組んでいます。

また、周辺地域から中心市街地地域への移動や大規模商業施設・医療施設等への広範囲の移動を行う際には、これらの交通機関と民間路線バス等の民間公共交通機関やコミュニティバスを乗り継ぐなどしていただきたいと考えています。

③「筋力アップ教室」や「脳元気教室」などの介護予防教室を実施しております。自宅に帰ってからも継続して行っていただけるような内容となっており、特別なことを行うのではなく、ちょっとした工夫を行うことで自分で出来ることの範囲を広げ、加齢に伴う認知機能の低下や身体機能の低下のスピードを遅くすることを目的として開催しております。